

## 平成30年度の重点目標

- 1 諸活動への参加を奨励しつつ学業に主体的に取り組む姿勢を育み、活力ある生徒の育成を図るとともに、本校の特色化を推進する。
- 2 各教科、各学年、各部の連携・協力を深め、学力の向上と進路意識の早期確立を目指し、生徒の自己実現を図る。
- 3 自覚ある生活態度の確立と地域社会との連携を更に推進し、社会性、寛容性を培う。

### 1 教務部

評価基準    A：達成できた    B：おおむね達成できた    C：あまり達成できなかった    D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 学習指導要領に基づく教育課程を確実に運用し、新しい大学入試に適応する力を養成する。	(1)各学年の教育課程の実施状況を検証し、問題点を明確にする。	B	<p>①新しい大学入試に適応する力を養成するための情報収集や検討は、もっと必要だと思う。</p> <p>②教育課程を検討し、新学習指導要領に沿った形に改訂することができた。</p> <hr/> <p>①今後、求められる力を把握したうえで、改善できる部分を検討する必要がある。また、次年度は、各教科や学年内で対策を始めるとよい。</p>
2 平成31年度入試を確実に実施する。	(1)一日体験学習、中学校訪問で、本校の魅力を広報し、志願者が増加するように努める。	A	<p>①体育館の改修工事に伴って、学校案内のビデオを利用するなどの改善工夫をすることによって、スムーズに進める事できた。</p> <p>②本校の魅力を発信できたが、他校との違いについて、もう少し教員も把握すべきと感じた。</p> <p>③中学校訪問では、部活動で活躍する生徒の様子などを踏まえて広報活動ができた。</p> <p>④志願者が増加するための取組を再度考えたい。</p> <hr/> <p>①清掃指導が不十分だったように思う。</p> <p>②他校との比較をすることによって、さらに本校の良さがわかる資料があるとよい。</p> <p>③多くの魅力がさらに中学生に伝わるよう工夫を重ねたい。</p>
	(2)特色選抜・一般選抜の実施方法を十分検討し、入試が円滑に実施できるように努める。	A	<p>①特色選抜では一部変更が行われるなど、十分検討が行われていると思う。</p> <p>②特色選抜の意義を、全職員で共有することができた。</p> <hr/> <p>①今後も、選抜方法・基準は、状況に合わせて随時検討を重ねていくべきだと思う。</p>
3 各係が、創意工夫を重ね、見直すべき点見直し、確実に職務を遂行する。	(1)前年度の改善意見を参考にし、新しい視点で職務にあたる。	B	<p>①職員から広く意見を募り、改善に努めていると思う。</p> <p>②少しずつではあるが、校務の見直しが図られ、職務に専念することができるようになった。</p> <p>③新しい視点で職務にあたることができなかった点が見られる。</p> <p>④総学の配置変更や追試の監督割当において、昨年の改善意見を反映し、職務にあたることができた。</p> <p>⑤前任者からのアドバイスを取り入れながら職務にあたることができた。ただ、仕事に時間がかかり過ぎることがあった。</p> <p>⑥学年会計では、前年の係の先生の指示のもと、流れに沿って仕事を進める事ができた。</p>

		③じっくりと考える時間の確保ができるとよかった。 ⑤来年度は、もっと迅速に仕事に取り組みたい。また、期限を明確にするなどの工夫をしていきたい。
(2) 係ごとの職務分析を明確にし、確実に職務を遂行する。	B	①電算係：突発的な対応も多いが、係としてはスムーズに対応できた。 ②記録調査統計係：年度当初の分担通り、協力して仕事できた。出欠黒板のチェックは、地味ではあるが、とても気を遣う仕事である。割当がされており、やりやすかった。 ③校務で手が回らないとき、他の先生が助っ人に入っただき、スムーズに遂行することができた。 ④時間割係：試験監督割当の発表が間際になったことがある。 ⑤職務を分担することができず、○印の職員に仕事が集まってしまった。 ----- ④見通しを立てて、作業を進める。 ⑤年度当初に、役割分担を明確にすべきであった。 ⑥年度末の引継ぎ時、仕事の流れをまとめた引き継ぎ書を作り、職務の内容や目的の把握の助けをしたい。

## 2 学習指導部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒の学習意欲を喚起することで、基礎学力の定着・向上を図ると共に、より高い学力の習得を目指す。	(1) 「チャイム to チャイム」を徹底し、授業の工夫に努め、基礎・基本の定着を図る。	B	・終了時間オーバーが多いなど、「チャイム to チャイム」は必ずしも徹底できなかった。 ・授業の工夫という点では、今後求められる思考力・判断力・表現力や主体的・対話的・深い学びを育成するための工夫がさらに必要だと思う。 ----- ・「チャイム to チャイム」については、多忙な環境ではあるが、まずは教員から範を垂れることが望ましい。
	(2) 学習ガイダンスや普段の指導を通し、高校生らしい学習習慣を定着させるよう努める。	B	・学習ガイダンスについては充実していると思う。 ・学習ガイダンスを始めとして、生徒に学習習慣作りの働きかけは行ってきたが、定着となると、まだ不十分な面も見られる。 ----- ・学習習慣がついてない生徒への対応をどうするか考えたい。
2 定期テスト及び追試が円滑に実施できるよう努める。	(1) 定期テストを受けられなかった生徒の追試計画を立て、関係する係と連携し、円滑な実施を目指す。	B	・追試計画を教務部時間割係と連携して立てることができた。 ・追試者の連絡手順など運用に混乱があった。実施までの手続きをわかりやすくした方がよい。 ----- ・さらに円滑な実施となるよう努める。 ・追試があるからと生徒が安易に考えることがないよう、テストに臨む心構えを繰り返し指導すべきである。
3 現職教育の充実を図る。	(1) 「共通テスト」の対策等、これからの時代に合う教育法を各教科・各教員が研究でき	C	・部としての取り組みがはっきりしなかった。 -----

	るよう、資料や研修の機会を提供するように努める。		・今後、取り組みを検討していく。
--	--------------------------	--	------------------

### 3 特別活動部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒の自主的・実践的活動を促し、生徒会の活性化を図る。	(1)各種行事の内容を更に検討し、より充実したものにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会が中心となって、各種行事が充実していた。</li> <li>・紫陽祭、体育大会ともに改善や工夫がなされており年々充実したものになっている。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事の反省の元に更に充実した内容を目指す。</li> </ul>
	(2)各種委員会・部活動と生徒会役員の連携を強める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に、紫陽祭等行事で生徒はよく動いていた（連携していた）。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の団体が係わるため、コミュニケーション不足を注意していく。</li> </ul>
2 HR活動における生徒の自主性を育成し、望ましい人間関係の形成を図る。	(1)各種委員会の自主的活動を支援する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒はとても良くやってくれるが自主性が感じられなかった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会で出た反省を次年度に生かしていく。</li> <li>・如何に生徒に主体性を持たせるか今後も試行錯誤を続けていく。</li> </ul>
	(2)各種行事に向けたクラスの準備時間を充実させるために、使用施設や日程を検討し、生徒による活動を推進する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた時間の中で効率よく出来るのか生徒間の中で実のある経験ができた。</li> <li>・各行事を真剣に取り組む姿勢が生徒間に良いつながりを生んでいる。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒達が限られた時間の中で考えて行動する習慣を身につけられるよう指導を継続していく。</li> </ul>
3 全職員がお互いに協力、連携し部活動の活性化に努める。	(1)施設・設備の充実を図り、部活動の活性化に繋げる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1体の工事で活動場所や時間の確保が難しかったが、関係顧問が協力して活動できた。</li> <li>・グラウンドコンディションが悪く主に部活動に支障を来している。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も事務との交渉を続ける。</li> </ul>
	(2)ホームページ等を通じて、広報活動を積極的に行い、地域間の連携を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動が積極的に行えなかった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・些細な事でもHPにあげていくよう意識を変えていく。</li> </ul>

### 4 生徒指導部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 統一された指導体制のもと、全職員が互いに協力、連携して指導する。	(1)職員の共通理解のもと、容儀指導を中心に、基本的な生活習慣を身につけさせて、生活態度の確立を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年を中心に指導が実践できた。</li> <li>・学年間の共通理解がある程度図れていた。</li> <li>・指導時はきちんと着こなせているが、普段の生活での場面では、乱れてしまうときが見られた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員で気がついた時に声をかけて継続的に指導していく。</li> </ul>
	(2)朝の立哨指導（身だしなみ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校時、生徒の様子を観察することができ良か</li> </ul>

	週間を含む) やふれあい街頭指導を通し、家庭との連携を図りながら、全職員で生活指導にあたる。	B	<p>った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝の立哨指導で副担任だけではなく、正担任も割り振って実施できればと思う。</li> <li>身だしなみ週間の実施を明確に設定して計画的に行う。また、朝の立哨指導に関して、正担任も入れた計画を立てて指導する。</li> </ul>
2 教育相談を効果的に生徒支援に活用している。	(1)各学年と連携しながら情報を常に共有して、教育支援の必要な生徒の学校生活の支援、改善を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談係を中心に、各学年と情報を共有しながら連携して生徒指導に当たることができた。</li> <li>主任会で出た生徒情報などを、教育相談係の打合せ以外でも積極的に各学年と情報共有を図っていく。</li> </ul>
	(2)SCや外部関係機関等との連携を図りながら、校内支援体制の構築を図っていく。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな事案に対して、SCやスーパーバイザーと連携を図り細かく対応できた。</li> <li>2学期以降、SCの相談時間を4時間から6、7時間と増やして多くの生徒や保護者の支援を図ることができた。</li> <li>SCに関わる業務を複数の担当者で行うようにできればよい。</li> </ul> <p>・相談件数が増加傾向にある。SCの相談時間や日数を拡充してもらおう対策を図る。</p>
3 交通安全及び社会規範に対する意識の向上を図る。	(1)交通安全の講演会、自転車安全点検の実施や交通街頭指導を通して、交通ルールの意識を高める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故の発生件数はゼロではないが、大きな交通事故もなく講話などを通して注意喚起をすることができた。</li> <li>ながら運転などが見られ危険である。</li> </ul> <p>・講話等を通して継続指導をすると同時に、朝の立哨指導とうまく絡めて指導体制を図れないか検討をする。</p>
	(2)防犯、薬物乱用防止、情報モラルなどの各講演会の企画運営を行い、生徒の社会規範に対する意識の向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各講演会を通して、生徒の意識を高める機会を持つことができた。</li> <li>SNSを多くの生徒が利用している状況下で、生徒間でLINE上での小さなトラブルも起きている。</li> </ul> <p>・情報の授業、ホームルーム活動や学年集会等を活用して情報モラルの意識向上に努めていく。</p>

## 5 進路指導部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒の適性と実態を把握し、進路意識を高める。	(1)進路希望調査、進路適性検査、進路講演会、大学見学、翔南一日大学、合格体験発表会等を実施して進路意識の早期確立を目指し、キャリア形成指導に十分活用する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各行事は、円滑に運営・実施されていた。</li> <li>進路希望調査の結果を見て生徒に声かけを行ったが、個々の分析をさらにしっかり行いたい。</li> <li>キャンパス見学において、一部の生徒に軽率な言動が見られた。</li> </ul> <p>・個別指導（担任面談等）を充実させる。</p> <p>・調査や検査、その他の講演・体験の感想等から生徒の変容を分析し、指導に生かす。</p> <p>・行事の主旨を生徒に理解させる。</p>
	(2)「進路探究ノート・進路資料」の記述内容の更なる充実を図り、3年間の体系的な進路探究活動に活用する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>分冊化して、内容が非常に充実している。</li> <li>推薦・AO対策の指導にも活用できる内容になっている。</li> <li>今年の1年生から新方式の入試が導入され、内容に変更となる部分がある。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究ノートを進路学習時の書き込み型ノートとしてさらに活用していく。</li> <li>・総合的な学習の時間に計画的に組み込み、時期に合わせて生徒に資料を読み込ませる。</li> <li>・ノート・資料を読み込んで、改善点や先生方が欲しいデータの意見を募って内容を充実させる。</li> <li>・新入試制度に対応した取り組みについて、資料を適宜更新していく。</li> </ul>
2 進路先について研究し、志望校決定のために適切に助言する。	(1) 大学入試センター試験や進路目標校の問題分析を綿密に行って校内模試・実力テストの作問・結果分析を充実させる。校外模試は、データ到着後早急に生徒と職員に分析結果を報告し、指導に活用する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内模試・実力テストの作問は工夫するよう意識されている。</li> <li>・綿密な作問・結果分析ができた教科は少ない。</li> <li>・校内模試・実力テストの作問において、未だに進研模試に拘っているきらいがある。</li> <li>・校外模試のデータ報告が遅れてしまった。</li> <li>・模試のデータから生徒の苦手とする分野の分析を行い、教科指導に生かすことが足りない。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模試担当としてスケジュール管理を徹底する。</li> <li>・常日頃から大学入試問題の研究を行う。</li> <li>・分析結果を受けて、授業内容の工夫を心がける。</li> <li>・大学入学共通テスト試行調査の分析結果を受けて、作問や授業展開の工夫をしていく。</li> <li>・次年度から全国模試分析システムが web 配信されるようになり、全職員が利用できるようになる。教科指導においてさらに活用したい。</li> </ul>
	(2) 3 学年進路検討会(7・12 月)、国公立大二次出願検討会(1 月)、2 学年進路対策会(2 月)、3 学年新旧担任報告会(3 月)の充実を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・担任・検討会参加者(助言者)間で必要な情報が共有されていないように感じるものが少なからずあった。</li> <li>・7・12 月検討会で「担任の面談・準備が不十分で検討が難しい。」との指摘があった。進学校の進路指導において検討会は命でもある。</li> <li>・大学の情報収集が不足していた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任の負担は大きくなるが、生徒の志望について多くの明確な情報を把握し提供する。</li> <li>・検討会への参加者を増やし、指導方針の共通理解を図る研修の機会とする。</li> <li>・次年度から全国模試分析システムが web 配信されるようになり、全職員が利用できるようになる。活用することで効率的に検討会を実施し、会の目的をさらに達成させる。</li> </ul>
3 保護者や地域社会への広報活動に努め、外部からも情報を適宜収集する。	(1) P T A 総会、学年部会、支部会、面談等において進路情報を適切に伝え、進路指導に対する連携意識を醸成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦入試の取り扱い方針など、コースの特性をいつ、誰が伝えるのか、明確だと良い。年度によって差があると対応で苦慮することがある。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面で保護者と関わりを持ち、情報提供し、信頼関係を構築していく。</li> </ul>
	(2) 高大接続改革を意識して、大学入試・調査書等に関する各種説明会(大学・業者)へ積極的に参加し、内容を関係者に周知する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた時間内で、可能な限りの情報提供は行われた。</li> <li>・ポータルサイトの説明会は参考になった。</li> <li>・各種説明会への参加が個人的にできなかった。</li> <li>・参加しても内容の周知がされなかった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み中の研修会に参加し、危機感を持った。</li> <li>・時間をやりくりして積極的に参加して、入試変更時期である今の情報収集に努めたい。</li> <li>・校内外に研修の機会があると良い。</li> <li>・各機関の発行物や HP などから情報を収集し、授業改善などに生かしていく。</li> </ul>

## 6 健康指導部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒自身が身体と心の両面から健康管理が徹底できるように指導する。	(1) 生徒自身が、日頃から自分自身の健康について関心を持ち、主体的に健康管理ができるように情報提供やアドバイスをする。	B	不登校の生徒が多数出てしまった。健康面ばかりでなく、色々な生徒に対しての情報提供が少なかった。 ----- 部として、生徒への情報提供をこまめにする。(例：保健便り等)
	(2) 頻繁に保健室を利用する生徒に対して、担任や関係諸係との連携を密にして、問題等を未然に防ぐよう努める。	B	保健室から担任等への情報が少なかった。 ----- 担任はもちろん関係諸係との連携を密に行う工夫をする。
2 安全で健康的な学校環境を整備する。	(1) 緊急事態発生時の教職員への周知等を徹底し、事後の対処を確立するよう努める。	B	予定通りの訓練は実施できた。が、全職員への周知徹底が不十分であった。 ----- 全職員へ現職教育等を使い、安全管理体制を徹底させる。
	(2) 救急患者等の対応方法を明確にするため、生徒及び教職員対象にAED講習会を開催する。	A	AED講習会を実施でき、多くの職員が対応することができると思われる。 ----- 継続していきたい。
	(3) 安全点検を年3回以上実施し、危険箇所の詳細を把握、早期改善に努める。	B	安全点検は実施できたが、危険箇所がそのままの場所があった。 ----- 早急に対応するように事務に願います。
1 学校内の環境美化を全職員で図る。	(1) 清掃分担区の監督割の工夫を図る。	B	副担の教員が自分のHRの生徒を担当できた。いくつかの分担区を担当したが、近いところの監督だったので助かった。 ----- 次年度も継続して欲しい。
	(2) 清掃分担区において自主的かつ積極的に清掃活動に取り組むよう指導を継続して行	B	汚れが目立つところがあり、積極的に取り組んでいる様子が見られない。監督が指導しているのか判らない所がある。 ----- 生徒指導の一貫として、しっかり指導する。

## 7 国際理解部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 国際化の進展に対応できる広い視野と自己表現力を持った生徒を育成する。	(1) 異文化体験をした生徒による体験発表の一層の充実を目指し、その体験を多くの生徒が共有できるようにする。 ・生徒向け啓発資料「MiniWorld」年数回発行 ・広報誌「Global Village」の発行 ・モーニングスピーチでの異	B	・今年度は昨年度より“Mini World”が充実していて良かったのではないと思う。 ・4月のオー研報告会では、英語を主に用いる形での発表に挑戦したが、準備を計画的に行い、よい発表になったと思う。 ----- ・“Mini World”や“Global Village”のさらなる充実を図る。 ・オー研報告会等の準備を今後も計画的に行い、

	<p>文化紹介等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紫陽祭でのオーストラリア研修会展示発表実施</li> <li>・「帰国留学生報告会」実施（8月）</li> <li>・オー研報告会（4月）</li> <li>・プレゼン研修（3月）</li> </ul>		<p>参加生徒の経験を他の生徒にしっかり伝えていく。</p>
	<p>(2) 実践的コミュニケーション能力を伸ばさせるため、弁論大会等への参加を奨励する。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解英語弁論大会の日程が実力テストと重なってしまい、希望者が出場を断念したのが残念であった。</li> <li>・県高校英語弁論大会予選には、1年生が5名参加した。本年度も本選が修学旅行と重なってしまい、2年生は出場できず、残念であった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も大会参加の意義を生徒にしっかり伝え、積極的に参加を呼びかけていく。</li> </ul>
<p>2 国際交流活動の活性化を図る。</p>	<p>(1) 「オーストラリア語学研修」について、平成30年度の円滑な運営を図り、内容の一層の充実を目指す。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業者プレゼンを経て選考したので、業者の対応が良くなったと思う。</li> <li>・充実した内容の事前・事後研修を、10回以上実施することができた。</li> <li>・昨年度の反省が生かされ、引率者の配慮も行き届き、充実した語学研修を実施できたが、ホストファミリーに問題があるケースもあった。</li> <li>・来年度の業者選定にあたり、プレゼンや会議などを経て、関係職員で共通理解を持って行うことができた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業者との連絡をさらに密にし、充実した研修を目指す。</li> <li>・参加中の生徒にアンケートを2回以上行うなど、正確な状況把握に努め、安心してホームステイができるよう努める。</li> <li>・今後も、業者選定にあたっては厳正・慎重に行う。</li> </ul>
	<p>(2) 「国際交流会」の円滑な運営を図り、内容の一層の充実を目指す。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の多くは意欲的に参加していた。</li> <li>・宇大留学生の中には、準備不足なのか資料に間違いがある人もいた。</li> <li>・留学生のプレゼン時間がもう少し長くても良いと思った。</li> <li>・国際理解委員の活躍の場ともなる、本校らしい取組だと思う。</li> <li>・国際理解委員の活動内容の指導がやや不十分であった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宇大との連携を密にし、より良い会になるようさらに検討していく。たとえば、事前に時間配分や国際理解委員の役割について、部内で協議してから準備を始める。</li> </ul>
	<p>(3) 受け入れ及び派遣留学生に対する指導をきめ細かく行う。特に派遣留学生が本校から毎年出るように、啓発活動を積極的にする。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受入れ留学生・派遣留学生とも、きめ細かい指導・援助ができています。受入れ留学生とは、毎日「連絡ノート」で本人・ホストファミリーと情報を共有し、連絡や相談をしている。</li> <li>・長期留学を考えている生徒に、情報提供や支援を行ったが、結果として来年度の派遣留学生は0名となった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も留学生に対し、きめ細かい指導を行っていく。</li> <li>・派遣留学については、さらに積極的に情報提供を行っていく。</li> </ul>

## 8 渉外部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 保護者および同窓会会員との連絡連携を密にし、特色ある活動の活性化をはかる。	(1) ふれあい挨拶活動と奉仕活動について、現状に対応した、効果的な実施を工夫し、保護者の参加数向上を目指す。生徒の良好な生活習慣の確立や学習環境の整備に寄与する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあい挨拶活動の保護者の参加率は、全体を通して、50%であった。ボランティアである事を考慮すれば十分な数値であるだろう。保護者と生徒、教員、また保護者同士の良い交流の場になっており、生徒に良い影響を与えている。</li> <li>駅当番の駐車場に関して、市有地が借りられなくなり、新しい場所を用意した。</li> <li>奉仕活動は台風接近のため中止にした。</li> <li>今後も活動の意義を保護者に理解してもらうように努め、現実に対応した方法で実施していく。</li> </ul>
	(2) 同窓生の学校行事への参加を促進し、キャリア教育の観点から、生徒の意識向上を目指す。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生対象のキャリア教育講演会は、多彩な分野の同窓生が参加してくれている。生徒に良い効果をもたらしている。</li> <li>今後も、同窓会を通して、様々な分野の方に参加をお願いしていく。</li> </ul>
2 各行事への保護者の積極的な参加を促す。	(1) PTA行事（総会・研修旅行）への保護者参加者数の向上を目指して、計画、広報を工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA総会の参加者数は、少しずつ減少傾向にある。参加を促す働きかけが必要である。</li> <li>研修旅行は多くの参加者があり、有意義に実施できた。</li> <li>ホームページを活用するなど、広報を工夫する。</li> <li>総会時の行事について保護者の希望を調査する。</li> </ul>
	(2) 学校行事（学校祭・持久走大会）の協力活動について改善点を明確にして、実施の充実をはかる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校祭、持久走大会とも多くの保護者に参加、協力していただき、盛会のうちに実施できた。</li> <li>豚汁作りでは、ハラル食対応など、いくつかの改善ができた。</li> <li>今後も参加の呼びかけ、実施要領の改善に努める。</li> </ul>
3 PTA会計の適切な運用を検討する。	PTA諸会費、特に学校後援会費の適切な運用を検討し、内規の改善を目指す。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度末に、会則・内規に関して、現状に対応した大幅な改正案を作成し、今年度の総会において承認を得て施行した。支出削減には大きな効果があった。</li> <li>年度により、支出の増える費目があるなど、将来的には、さらなる対応が必要になるだろう。</li> <li>今後も、現実に対応した適正な運用に向けて検討を続ける。</li> </ul>

## 9 1学年

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 基本的な生活習慣を確立させる。	(1) 教職員の共通理解のもと、服装頭髪指導を計画的に実施し、生徒がきちんと制服を着用できるようにさせる。	B	<p>教職員の共通理解のもと行われた服装頭髪指導は概ね良好であったが、まだ改善の余地がある。</p> <p>自ら場に応じた制服の着用ができるように、継続して指導する。</p>
	(2) 特別活動（部活動や学校行事など）への積極的な参加を奨励し、生徒の学校生活の	A	<p>例年と比較し部活動の加入率は高かった。また学校行事等にも積極的に参加し行事を成功させた。</p>

	充実を図る。		様々な場面で部活動への加入を呼び掛ける。
2 主体的な学習習慣を習得させ、基礎力の向上を図る。	(1) 学習記録表を活用し、生徒の主体的な家庭学習時間：3時間以上（学年＋2時間）の確保を目指す。	B	学習記録表を活用したが、校内の調査結果によれば、家庭学習時間が2時間の生徒が多いようだ。 ----- 来年度は学年＋2時間＝4時間を目指す。
	(2) 種々のテストの結果を分析し、生徒各自の課題把握と改善に努めさせる。	B	校内や校外の試験結果を分析し、生徒各自の課題を把握し、面接等に生かした。 ----- マナビジョン等を用いて指導する。
	(3) 基礎的課題研究に取り組みせ、主体的な学習への意識を高めさせる。	B	計画的に指導できた。生徒はよく準備し、最後にグループでPCを用いて発表した。 ----- クラス替えとなるが来年度も継続して指導する。
3 一人ひとりの志望と適性を生かした進路指導を進める。	(1) 適性検査、面談、オープンキャンパス等を通して個々の適性を把握し、生徒の進路意識を高め、適切な類型選択ができるようにする。	B	生徒面談や保護者面談を実施した。生徒は夏季休業中の課題としてオープンキャンパスに参加した。それらは生徒の進路意識を向上させた。 ----- 生徒の進路意識を高めるため、学年の教員全員で協力し行事を工夫しながら行う。
	(2) 校外模試の実施、小論文や英検の指導を通して、進路実現に向けた基礎学力の養成を図る。	B	校外模試、小論文、英検の指導を通して、生徒は基礎学力を養成した。生徒はGTECにもチャレンジした。2年後のよい意識付けになった。 ----- 来年度も同様に実施する予定である。

## 10 2学年

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 基本的な生活習慣を確立させる。	(1) 頭髪・服装等の容儀規程を守らせ、挨拶など基本的な生活習慣を身につけさせ、落ち着いた学校生活を送らせる。	B	・学年団全体で情報共有し指導出来た。 ・女子のスカート、靴下は改善の余地がある。 ----- ・教員が共通認識を持ち指導する。 ・生徒の心情・悩みなどに注意する。
	(2) 清掃を徹底させて、教室内の環境美化に努め、常に学習環境を整えさせる。	B	・生徒が主体的に環境美化に努めている。 ・教室、廊下が汚れている教室もある。 ----- ・日頃から整理する習慣を徹底する。 ・学年団全体で指導する。
2 主体的な学習習慣を身につけさせ、学力の向上を図る。	(1) 課題の提出を徹底させ、予習・復習の習慣を確立させることで、自律的な学習態度を体得させる。	B	・教科の先生方が粘り強い指導をしている。 ・一人ひとりに細かい指導ができなかった。 ----- ・学ぶ意義を明確に伝える。 ・粘り強く注意していく。
	(2) 種々のテストの結果を分析し、各自の課題把握と改善に努めさせ、学力の向上を図らせる。	A	・2学期後半から意欲が出てきた生徒が増えた。 ・面談時に「資料等で考えさせる機会」を作れた。 ----- ・全員が学びやすい雰囲気作りをする。 ・分析結果を生徒に伝え、学習意欲を刺激する。
	(3) 課題研究に主体的に取り組みせて、探究学習への意欲を高めさせる。	B	・指導不足になってしまった。 ・研究内容を進学につなげてほしい。 -----

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめに向け、先を見据えて活動させる。</li> <li>・教科指導や様々な場面で働きかけていく。</li> </ul>
3 一人一人の志望・適性に応じた進路指導を進める。	(1) 進路指導的行事・LHR・総合的な学習時間の指導・面談などを通して進路意識を高め具体的な進路選択が出来るようにさせる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時機に応じて学年集会やクラスで指導ができた。</li> <li>・e-portfolioの活用が不十分である。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動記録をチェックし、指導を徹底する。</li> <li>・様々な場面で進路を意識させるよう声掛けする。</li> </ul>
	(2) 校外模試の実施、小論文や英検等の指導を通して、進路実現に向けた基盤となる学力の養成を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GTECを全員対象に実施することができた。</li> <li>・模試分析や過去の経験を踏まえ適切に指導した。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学への明確なビジョンを持たせる。</li> </ul>

## 1 1 3 学年

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 自覚ある生活態度と校則遵守の徹底を図る。	(1) 校則を守り、集団生活をする上でのマナーを向上させる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的指導の成果で素直な生徒が多いが、服装がやや乱れている生徒もいた。</li> <li>・受験に向けての周囲へのマナーで、改善が必要である。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マナーの向上意識を様々な場面で徹底していく。</li> <li>・昼休み中に巡回指導をし、様子を観察する。</li> </ul>
	(2) 学習環境を整えるため、清掃活動を通じて環境美化に努めさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下に荷物などがなく、整理整頓できていた。</li> <li>・テスト後に荷物が残ってしまうことがあった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室廊下は公共の場という意識を持たせる。</li> <li>・テスト後片付けを早くさせ、教卓周りを整える。</li> </ul>
2 進路目標実現の志を継続させ、学習を継続させる。	(1) 授業に集中させ、効果的な学習時間の確保を支援し、早期に受験勉強に取り組ませる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期の意識付け、学習方法、家庭学習の充実という部分で、もう少し徹底させたかった。</li> <li>・休み時間との切り替えができ、落ちついて授業を受けていたが、一部移動が遅い生徒もいた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別面談を通して状況把握に努める。</li> <li>・学習状況とあわせて学習内容の確認をする。日々の学習記録でふり返らせ、改善をはかる。</li> </ul>
	(2) 外部模試等で、自己の学習の達成度を的確に把握し、進路意識を高めさせ、学力向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒が意識を持って模試に臨んでいた。</li> <li>・オープン模試で進路意識を高めることができた。</li> <li>・模試が、個人の課題解決につなげられなかった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任、教科担当がそれぞれ指導内容を検討する。</li> <li>・模試を用いて学力向上に向けた取り組みを再考する。年間を通じた学習のやり方を指導していく。</li> </ul>
3 生徒の実態に応じた進路指導を行い、進路希望の実現を図る。	(1) 年間を通して数多く面談を実施し、進路希望に応じた適切な助言を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒保護者に対し、きめ細やかに面談を行っていたが、一部面談が不十分な場面もあった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路の選択肢を広げ、進路実現の意欲をさらに高める意識付けをしていく。</li> </ul>
	(2) 進路指導部と連携し、進路研究を充実させる。また、個々の生徒に合った詳細な進路資料、面談資料を提供する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部と連携し、指導にあたれた。</li> <li>・進路研究はLHRを通して充実していたと思う。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を精選し、必要なアドバイスをする。</li> </ul>

## 1 2 国語科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒が効果的な学習法を確立できるように指導する。	(1) 効果的に学習を行えるよう、適宜学習法に関するガイダンスを行い、必要に応じて個別に指導を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノート作りや問題集（週末課題）への取り組みで工夫している生徒の事例を他生徒に紹介するなど、各自の学習法を考えさせる機会を作った。</li> <li>各習熟段階でどのような学習法がとられているかを把握し、それぞれの必要（課題）に応じた学習法をアドバイスしていく。</li> </ul>
	(2) 課題により学習の習慣化を図り、自主的な学習につながる指導を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題（毎週末、長期休業）の提出状況は概ね良好だった。しかし、自主的な学習として課題に取り組んでいた者ばかりではなかった。</li> <li>より習得を意識した学習姿勢、定着を自分で確かめながら進める学習を心掛けさせて、達成の実感から自主的な学習姿勢へとつなげていく。</li> </ul>
2 基礎学力の定着および記述力の向上を図る。	(1) 古典分野を中心に小テストを実施し、振り返りの機会を設けることで、基礎的な学力事項の確実な定着を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>週末課題や授業の復習の他、古文・助動詞や漢文・句形についての反復学習の機会を、授業冒頭の小テストの形で継続的に提供した。</li> <li>基礎事項こそ自学自習が必要であり、それを促すのに小テストは有効なので、今後も授業スタイルとして継続していく。</li> </ul>
	(2) 思考力を鍛え、長文の記述に対応できる力の向上を意識した授業展開を工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の課題として記述解答を求める問いや作文（意見、要約）に取り組む機会を意識して設けたが、前提となる読解力の不足が感じられた。</li> <li>短文解答の問いも丁寧に扱い、前提となる読解力の習得をより確実にした上で、記述問題を敬遠しないで取り組む姿勢を養っていく。</li> </ul>

### 13 地歴・公民科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 地歴・公民科の教員が一体となって指導に当たることで、生徒の学習意欲の喚起と学習習慣の定着を図る。	(1) 授業の受け方や復習の行い方に関するガイダンスを、時宜に応じて行うことで、授業と家庭学習の結びつきを強める指導を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年生スタート時のガイダンスはしっかり行えたが、2年生1学期の中間テスト後の指導をもう少し充実させるべきだった。</li> <li>時宜に応じた学習方法の指導を行うことができたので、さらに授業と家庭学習の結びつきを強める方策を考えていきたい。</li> <li>年間を見通した授業内容だけでなく、学習方法の指導内容の教員間での共有化を図る。</li> </ul>
	(2) 授業担当者間で連携を密にとることで、生徒の情報交換に努め、生徒の実情にあった指導法を考える。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業担当者間で密に連携をとりながら指導を展開できた。</li> <li>教科会を利用して情報交換を行うことで、学年や科目に関係なく生徒の状況を共有できた。</li> <li>今後も継続していく。</li> </ul>
2 生徒の基礎学力の向上を図るとともに、センター試験や大学入学共通テストをはじめとする大学入試に対応できる学力を身につけさせる。	(1) 基本的事項の確実な定着を図るため、小テストを計画的に実施し、成績不振者に対しては教科面談等を実施する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部の科目で進度の関係から計画通りに小テストの実施ができなかった部分もあったが、概ね生徒の学力向上につながるよう小テストを実施できた。</li> <li>成績不振者に対して適宜教科面談を行うことができた。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画通り小テストを実施できるよう授業改善に取り組み、授業の進度を確保する。</li> <li>・教科面談は今後も継続していく。</li> </ul>
(2) 校内模試や校外模試の分析を通して科目ごとの強みと弱みを把握し、授業は言うまでもなく、課外にそれらをフィードバックすることで、受験を早期に意識させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科会を利用してどの科目も模試の結果を分析し、授業や課外にフィードバックできた。しかし、すべての生徒に受験を早期に意識させることは難しかった。</li> <li>・生徒に学ぶ意義をしっかりと伝えていく。</li> </ul>

## 1 4 数学科

評価基準 A : 達成できた B : おおむね達成できた C : あまり達成できなかった D : 達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 家庭学習の習慣化を促し、基礎学力の向上と、考える力を身につけさせる	(1) 予習・授業・復習といった学習のサイクルの習慣化を促し、週末課題の提出を徹底させ、主体的に学習できるように導く。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の提出状況は良好だが、提出するだけの生徒も見られた。</li> <li>・習熟度別に課題を与え、力を付けさせることができた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の出題範囲の工夫など生徒の課題の取り組みにも注意を払いたい。</li> <li>・下位層の一部の生徒は課題の提出状況はよくない。個別の指導が必要である。</li> </ul>
	(2) 必要な場面・状況で習熟度別授業を行い、個々の生徒に応じた教材を提供し、学力向上へとつなげる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理系クラスの3分割の授業はそれぞれのレベルに応じた授業を展開することができ、一定の効果があつたと思う。</li> <li>・文系も2年次スタートから習熟度授業を展開したい。</li> </ul>
2 生徒の学習意欲を高め、進路実現に向けた実践力を養う。	(1) 土曜課外・平常課外の時期と内容を検討し、多くの生徒が主体的に参加するよう、計画的に実施し、効果が上がるよう努力する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課外の出席状況はよく、課外にも積極的に取り組んでいた。内容が基本的なものだったので時間を持て余す生徒も見られた。</li> <li>・多くの生徒が課外に参加し、意欲的に取り組んでいた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上位層など出て欲しい生徒の参加が少なかつたのが残念だった。</li> </ul>
	(2) センター試験（数学）において得点率を全国平均に近づけられるよう、効果的な指導をする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年10月より演習を繰り返し行い、誘導問題に対する対応力を付けることができた。</li> <li>・結果として全国との差があるので、更に近づけられるよう改善が必要である。</li> </ul>

## 1 5 理科

評価基準 A : 達成できた B : おおむね達成できた C : あまり達成できなかった D : 達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 科学的な興味関心を喚起するとともに、授業内容の充実を図る。	(1) 各科目において、授業の内容と日常生活との関連を考えさせて、理科への興味関心を高める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科と日常生活との関連は、各科目の授業において実感をもたせることができたと思う。</li> <li>・科学への興味関心の持ち方においては、各生徒間での温度差が大きい。日常生活との関連を考えさせる機会を増やすなどの努力をしていく。</li> </ul>
	(2) 観察、実験、発表の機会を		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に3年生理系の授業内容が豊富であるため、</li> </ul>

	取り入れながら、知識の向上を図るとともに、主体的な学びの育成を図る。	B	学習内容を終わらせるのが大変である。観察、実験、発表を通して、有用性を実感させる機会を作り主体的な学びの育成が不十分であった。 ・分野による偏りをなくすよう、学習計画を練る。 ・実験の結果を踏まえ、生徒による発表の機会をより多く取り入れるように授業展開を工夫する。
2 生徒の進路実現のために、積極的な支援を行う。	(1) 理系への進学を目指す生徒に対して、クラス担任との連携を図りながら、進学に関する情報を提供して指導・助言を行う。	B	・理科の授業以外（課外、総学や面接指導等）の機会も活用し、進路学習やプレゼン方法の指導助言ができた。 ・来年度も継続していく。 ・より多くの生徒に対して、探究活動への取り組みを実施していきたい。
	(2) 高大連携講座（G S C）や翔南サイエンスツアーの企画運営を行い、生徒の進路選択の一助となるように支援する。	A	・高大連携講座、翔南サイエンスツアーへの参加や校内実験、課外等の実施で実生活における技術や最新の話題に触れさせることができ、進路選択の支援をすることができた。 ・継続して、実施できるようにする。

## 16 保健体育科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 健康・安全に対する意識の涵養と体力の向上を図る。	(1) 授業に向き合う姿勢を見直し、集団行動のマナーを身につけさせる。 ・集合時間の厳守 ・体育委員の役割の徹底	A	・各学年共に集合時間が徹底できた。 ・最近大人しい生徒が体育委員を務めているケースが多く、時間はかかるが少しずつ成長している。 ・今の時代、集団の中で指導する必要性があるため今後も継続する。
	(2) 体力の向上を目指して、新体力テストの結果を踏まえたトレーニング法を工夫する。 ・体力の著しい低下を防ぐ工夫をする。	B	・体力の中で特に、筋力が弱い生徒が増えた。骨が脆くなったり、姿勢が悪くなったり、体が冷え易く成ったり影響が出やすいのでしっかり鍛えたい。 ・週3回のトレーニングだけでなく、知識としてのアプローチも同時に行う。
2 体育施設の管理を徹底し、有効的な活用を図る。	(1) 第一体育館改修工事に関連して授業・部活動・行事の展開や運営を関係諸機関との連携を深めながら進める。	A	・AL 室や翔武館等を利用させていただき効率よく授業・部活動が運営できた。 ・校内体育大会を栃木市総合運動公園で開催できた。 ・今後も柔軟に対応し生徒の活力を生み出していくしていく。
	(2) 新たな体育施設の管理を確かなものにするために、点検・施錠・清掃等、適切な取り扱いを徹底する。 ・長期休業中における清掃担当の割り振り ・施錠の徹底	B	・施錠、清掃等は概ねしっかり出来た。 ・2体のカーテンの破損、電気が切れたままなのは気になる。 ・放送施設があまり集会向きではなかった。 ・改善できるところは改善し、生徒が生き生きと活動できる環境を整える。

## 17 芸術科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 基礎的・基本的内容	(1) 指導内容を精選し、表現活		・様々な活動を行う中で、生徒が理解しやすいよ

の充実を図りながら、生徒一人一人の興味・関心を深め、芸術活動を充実させる。	動の質を高められるような授業の実践に努める。	B	うに言葉を選ぶなど、伝え方を工夫するよう心がけた。 ----- ・生徒の反応を見ながら授業を進めるようにしていたが、よく内容を理解ができていない生徒もいたので、指導が行き届くようにしたい。
	(2)表現活動及び鑑賞活動の相互の関連を図り、創造的な学習をより活発に行うことができるよう努める。	B	・鑑賞の授業では、ただ DVD や CD などを鑑賞するだけでなく、その内容に関連している話などを取り入れ、より具体的でわかりやすい説明を行うように工夫した。 ----- ・分野によっては知識不足な部分があったので、もっと幅広い分野の知識習得に努める。
2 芸術を愛する心情を育て、生涯学習の一環として豊かな情操と創造力を深める。	(1)活動の喜びを得るとともに、生涯にわたって芸術に親しむ態度や習慣を身に付けるよう指導する。	B	・豊かな感性を育むために、互いの意見を共有、尊重し、個性溢れる芸術の楽しさを感じさせるように授業展開を行った。 ----- ・他人の感性を真似してしまう生徒もいたので、個性を持って主体的に活動をするように指導を行う。
	(2)音楽・美術・書道の歴史と変遷、日本の伝統音楽などへの関心や理解を深められるよう指導する。	B	・自国の文化ではあるが、あまり触れることのない芸術に対して、興味を持ち、誇りをもって授業に取り組むことができた。 ----- ・自国特有の芸術の美しさについて、気づかせてあげられるように指導を行う。

## 18 英語科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 学力の向上を図る。	(1)生徒が、早い段階で自学自習を習慣化できるように、指導を工夫し、基礎学力の定着を図る。	B	・新入生に対する学習オリエンテーションを実施し、予習復習の仕方を指導した。 ・毎週末の課題、予習プリントの配布などをして、自学自習の習慣化を図った。 ・授業中に生徒自身が取り組む活動を増やした。 ・上記のような取り組みにもかかわらず、学習の習慣化、基礎学力の定着ができていない生徒がいる。 ----- ・自宅での学習を習慣化できていない生徒への働きかけを工夫する。 ・基礎的事項に関しては、くり返して指導し定着化を図る。
	(2)センター試験での全国平均点を目標とし、進路実現のための実践力を養う。	B	・平均点には至っていないが、実践力を養うために問題演習を計画的に行った。力のついた生徒も多くいた。 ----- ・今後はセンター試験に加えて、共通テスト対策を考えていく必要がある。
2 英語のコミュニケーション能力を伸ばす。	(1)生徒が英語でコミュニケーションを積極的に行うよう支援し、学習意欲を高める授業を工夫する。	B	・スモールトーク、ペアワークやグループワークなど、生徒が授業中に英語でコミュニケーションをする機会を多くした。 ・対話的な授業を実施して、学習意欲を高めた。 ----- ・スモールトークの内容をテキストの内容に合わせて、「聞く・話す」活動が「読む・書く」活動に結びつく指導の工夫をする。 ・自発性を育む取り組みをしたい。
	(2)指導科目・内容に応じて使	B	・英語による活動を多く取り入れて、英語の使用

	用言語の適切な選択を行い、生徒・教員ともに、英語を発話する機会、量を増やす。		<ul style="list-style-type: none"> <li>率を高めるとともに、語法文法の説明は日本語で行うなど、メリハリのある言語使用を行った。</li> <li>学年で共通のプリントを使用してペアワークなどを多く取り入れた。</li> <li>今後さらに、英語を発話する機会を増やす工夫を続ける。</li> </ul>
3 資格検定試験、弁論大会など校外行事への参加を奨励する。	(1) 資格検定試験の合格を目指した指導を計画的に行う。 実用英検取得者数目標 1年 準2級 80 2年 準2級 150 3年 2級 30	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年で目標の合格者を達成した。</li> <li>1次のライティング、2次面接の指導をALTも含めた英語科教員全員で協力分担し、計画的に行うことができた。</li> <li>GTECは初めて1・2年生全員に学校で公式受験をさせた。</li> <li>GTECの過去問を解く機会を授業中に数回設けた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後は実用英検とGTECのバランスを考えながら指導していく。</li> </ul>
	(2) 学年行事としての英語スピーチ大会、プレゼン大会の充実を図り、校外行事の参加者指導を計画的に行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生の英語スピーチ大会は、生徒の準備を良く指導し、成功裡に実施できた。</li> <li>2年生のプレゼン大会は日程的な事情で全体会は実施できなかったが、クラス毎の発表会は活発に実施できた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内の大会が、校外大会の参加につながるような日程調整をしていく。</li> <li>生徒へのスピーチの指導・支援の工夫を続ける。</li> </ul>

## 19 家庭科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活の充実向上を図る能力を育む。	(1) 指導内容の精選を行い、生活活動に関わる事柄について関心を持ち、知識・技術の定を図れるようわかりやすい授業の実践に努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近なテーマを題材にすることで、生活に関わる事柄について興味関心を持ち、知識を高めることができた。技術面においては個人差はあるが、定着してきており、自ら活動できるようになってきた。</li> <li>2単位の授業の中で効率よく授業展開ができるよう、更に授業内容を検討する。</li> </ul>
	(2) じぶん未来学、能動的学修の視点から計画表の見直しを更に図り、効果的に学習できるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部見直しを行ったが、課題が残った。</li> <li>情報収集や研修会等に参加し、本校に適した学習内容を検討する。</li> </ul>
2 実践的・体験的学習を通し、生活事象を科学的に考える力を高めると共に、安全・衛生面での意識を高揚させる。	(1) 思考力・実践力を高めるため、実験・実習を効率よく取り入れる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験・実習等の体験的な学習を通し、思考力や実践力を高めることができた。</li> <li>実験・実習を通して論理的に考察できるようさらに教材の工夫や指導法の工夫を図る。</li> </ul>
	(2) 事前準備から事後指導を適確に行い、注意事項の周知徹底を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前準備に時間をかけ、実験・実習を円滑にできるよう心がけた。しかしながら注意事項を徹底させるには課題が残った。</li> <li>安全面に配慮しながら、個別指導で対応してい</li> </ul>

かなければならない。

## 20 情報科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒の興味関心を高め、情報活用の実践力を高める。	(1) 文書処理ソフトを活用しながら、情報機器の基本的な使い方や情報機器を利用するときの注意点を理解させ、実践力を育成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のパソコンを扱うスキルの差が大きく、指導法に困る場面が多い。</li> <li>個々の能力に応じた指導をできるだけ行いたい。</li> </ul>
	(2) 実技の時間を増やし、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを使い、情報を収集・処理・表現し、受け手に発信ができるような力を養う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>Excel や Word を用いて実技の演習を行い、グラフや計算式をおおむね扱うことができるようになった。</li> <li>苦手な生徒への指導に工夫が必要である。</li> </ul>
2 情報社会に参画する態度を養う。	(1) 情報化が社会に及ぼす影響と課題、および個人の責任について理解させ、情報社会の一員としての能力と態度を育成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で、DVD を用いて SNS 等で起こるトラブルについて考えさせることができた。</li> <li>近年の生徒の状況を考えると、早い段階で情報モラルの指導を行いたい。</li> </ul>